

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名	唐津市立鏡中学校
-----	----------

1 前年度 評価結果の概要	未達成の項目もあったものの、生徒の主体的な活動を重視した教育課程をおおむね推進することができた。学校行事の参観や、合唱コンクールなど、等での配信を行い、できるだけ保護者にも生徒の様子を参観いただくことができた。今年度も生徒の出番・役割・承認する活動に重きを置き、生徒個々の自己肯定感を高めるとともに人とかかわりを大切にすることで学級や集団の力を伸ばしていく。学力向上に関しては、これまでの研究の蓄積を発展させ、生徒が「使えた」と実感できる「パフォーマンス課題」を単元の中に組み込み、学んだことを実際に使えた達成感から「学びに向かう力」の向上を図り、学力向上を目指したい。
------------------	---

2 学校教育目標	We love 鏡中
----------	------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 職員、生徒、保護者等、鏡中に関わる全ての人々が、「鏡中 大好き」と言えるような教育活動の推進</li> <li>② 授業規律の確立と生徒が主体的に学ぶ魅力ある授業の展開</li> <li>③ 自他とともに認め合い、互いを思いやり尊重できる人権・同和教育の推進</li> <li>④ 生徒の自己指導力の育成を図るため、「生徒指導の4機能」を生かした教育活動の推進</li> <li>⑤ 全職員が自分の持ち味を生かしながら、積極的に学校運営に参画できる体制の確立</li> <li>⑥ 保護者・地域・小学校・上級学校等との連携及び相互理解による「開かれた学校づくり」の推進</li> </ul>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		学校関係者評価
									評価
●学力の向上	○各教科での学びを「使える」から「使えた」と評価できる生徒の育成を目指す指導の工夫	○生徒アンケートにおける各教科の「授業内容はよくわかる」に肯定的に答える生徒80%以上。	・これまでの取り組みを継続しつつ、全職員の共通理解のもと「できる」「わかる」「使える」というステップを意識した授業を展開する。	B	・生徒アンケートにおける各教科の「○○の授業内容はよくわかる」に肯定的に答える生徒81.4%であった。	A	・後期の生徒アンケートにおける各教科の「○○の授業内容はよくわかる」に肯定的に答える生徒81.7%であった。	・授業の内容がよくわかるに肯定的に答える生徒が多いことは、評価できる。学力の定着へ向けて今後もしっかり取り組んで欲しい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「人が困っているときは、進んで助けている」と肯定的な回答をした生徒が80%以上。	・人権に関する講演会や集会を実施し、生徒が差別やいじめを見抜く力を養う。 ・育友会、地域と連携したボランティア活動を行う。	A	・人権に関する講演会等を通して、差別やいじめについて理解を深めた。 ・地域ボランティア部の活動として、定期的に清掃活動等に取り組んでいる。	A	・質問紙調査の「人が困っているときは、進んで助けている」と肯定的な回答をした生徒が89%であった。 ・地域ボランティア部の活動として、清掃活動の継続を行うことができた。	・予想より、多くの生徒が肯定的に思っていることは評価できる。思春期であるため、思っている行動できないこともあるのではないだろうか。 ・地域ボランティアは継続して取り組んでもらいたい。	・道徳教育推進教員 ・人権同和教育担当 ・学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価保護者アンケートにおいて、「学校は、安全・安心で、いじめのない学校・学級づくりに努めている」の肯定的評価90%以上。	・生徒に対して生活アンケートを実施し、対応する。 ・いじめ対応についての研修等を年間に3回以上行い、いじめの認知、初期対応、指導、再発防止等の共通理解を行う。	A	・定期的な心のアンケートを実施した。さらに生徒、保護者にいじめアンケートを実施し、対応している。 ・いじめの職員研修を行い、共通理解を図った。	A	・定期的な心のアンケートを実施した。さらに生徒、保護者にいじめアンケートを2回実施し、対応している。 ・学校評価保護者アンケートにおいて、「学校は安全・安心で、いじめのない学校・学級づくりに努めている」の肯定的評価91%であった。	・生徒もいじめは駄目なことわかっているが、なかなかなくなる。アンケート実施など、今後も継続して欲しい。SNS等でも行われているため、対応が難しいが、保護者と連携しながら進めてもらいたい。生徒の回復力の育成も大切である。	・生徒指導主事 ・各学年生徒指導担当
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上。	・教職員が開発的生徒指導の実践を行う。 ・学級活動や総合学習を中心に、学校教育活動全体で夢や目標、キャリア教育の実践を行う。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した生徒92.2%であった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒97.2%であった。	A	・後期の生徒アンケートにおける「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した生徒85%、保護者は98%であった。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒76%であった。	・先生に認めて欲しいと思っ頑張る生徒もいるはずであるから、先生方には生徒理解に努めてほしい。 ・生徒たちが将来の夢や目標を育てるような教育を実践してほしい。	・学年主任 ・各担任
	○「We love 鏡中」をキーワードに「命を大切に、自分を大切に、他人を大切に」できる生徒の育成を目指す教育活動	○学校評価保護者アンケートにおいて、「生徒は学校が楽しい」に肯定的回答80%以上。	・教師が仕組み授業だけでなく、SCやSSWによる講話や、外部人材の活用による授業展開を行う。	A	・保護者アンケートにおいて、「生徒は学校が楽しい」に肯定的回答90%であった。	A	・保護者アンケートにおいて、「生徒は学校が楽しい」に肯定的回答92%であった。	・学校が楽しいと肯定的に答える生徒が多いことは、評価できる。今後もしっかり取り組んで欲しい。	・管理職
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒85%以上。 ○毎日朝食をとって登校する生徒95%以上。	・給食だよりを周知する。 ・家庭科の授業や給食時間の放送を中心に、食に関する関心を高める。	A	・「健康に良い食事をしている」生徒93.6%であった。	A	・後期の生徒アンケートにおける「健康に良い食事をしている」と考える生徒は92%であった。	・健康に良い食事や朝食を取る生徒が全員ではないので、保護者に協力しながら進めて欲しい。 ・長期休業中の食事についても保護者に意識してもらい、協力をお願いするとよい。	・食育担当 ・養護教諭
	○安全に関する資質・能力の育成	○外部から講師を招いて、学年単位で防災教育を実施する。	・日本赤十字社(佐賀支部)から講師を招聘し、生徒を主体とした防災に対する講演・体験会を行う。	B	・全校生徒を対象に、火災避難訓練等を通して防災に関する理解を深める防災教育の時間を設けた。	B	・都合が合わず、日本赤十字社から講師を招聘することはできなかったが、避難訓練等を通して防災意識を高めることができた。	・防災に対する意識を高めて欲しい。防災について考えることは素晴らしい取り組みである。今後も推進して欲しい。	・学年主任 ・各担任
●特別支援教育の充実	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・教職員一人ひとりが担当する業務について、効率化の視点から見直しを行う。 ・業務記録表を使って、業務改善をすすめ、月当たり80時間以上の超過を減少させる。前年度比10%減、学校閉庁日の設定を実施する。	B	・職員全体の超過勤務については減少傾向にあるものの、個人での月当たりの超過勤務者数は、前年度と比べ、80時間以上(4月～11月)は、同等である。	B	・職員全体の超過勤務については減少傾向にあるものの、個人での月当たりの超過勤務者数は、前年度と比べ、80時間以上(4月～2月)は、同等である。 ・学校閉庁日を設定し、実施した。 ・全職員が年休を5日以上取得した。	・学校閉庁日などの設定は良い取り組みだと思う。 ・教員が不足しているため、学校の負担が増えていると聞いたことがある。全体としては改善傾向にはあるものの月80時間以上の残業を含め、さらに業務改善に取り組んでいただきたい。	・管理職 ・各務分掌担当
	○勤務時間を意識した働き方の実施	○「業務改善を推進する・働き方改革を推進している」と回答した教職員80%以上。	・校務分掌や日々の業務について、個人に負担がかからないようにする。また、業務に組織的に対応する体制を構築し、実行する。	B	・「業務改善を推進する・働き方改革を推進している」と回答した教職員80%であった。	B	・「業務改善を推進する・働き方改革を推進している」と回答した教職員79%であった。業務量の偏り等があれば調整し、特定の教職員に負担がかかることを防ぐ必要がある。	・働き方改革を推進できている職員の割合が変化していないので、後は工夫しながら推進していただきたい。	・管理職
●特別支援教育の充実	○教員の専門性の向上及び意識の改革 ○「チーム鏡」での組織的な対応	○特別支援の視点による生徒対応力が向上した教員が80%以上。 ○学校評価保護者アンケートにおいて、「生徒は学校が楽しい」に肯定的回答80%以上。	・特別支援教育に関する研修会を実施し、共通理解を図る。 ・支援会議の開催と配慮を要する生徒への職員間の情報共有を行う。 ・SCやSSW、医療機関等、外部機関との積極的に連携する。 ・ユニバーサルデザインを意識した環境整備を行う。	A	・8月と10月に教育事務所から講師を招聘し、職員全体で研修を行い、共通理解を図った。 ・生徒の状況により、SCやSSWとの連携を図っている。 ・特別支援の視点による生徒対応力が向上したと感じている教員が90%以上であった。	A	・特別支援の視点による生徒対応力が向上したと回答した教員が94%であった。 ・学校評価保護者アンケートにおいて、「生徒は学校が楽しい」に肯定的な回答が92%であった。	・特別支援の視点による生徒対応力が向上したと回答した教員が94%であったことは素晴らしいと思う。 ・学校評価保護者アンケートにおいて、「生徒は学校が楽しい」に肯定的な回答が92%でおおむね肯定的に捉えていることは良いことである。	・管理職 ・特別支援教育CO ・教育相談担当
	○開発的生徒指導の推進	○自己肯定感を高める開発的生徒指導の推進	○「学校が楽しい」と肯定的に答える生徒90%以上 ○「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒75%以上	・教育活動全体を通して、役割・出番・承認の場の設定する。 ・生徒主体の活動を設定する際に、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒75%以上	A	・生徒アンケートにおいて、「学校が楽しい」に肯定的回答90%であった。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した生徒92.2%であった。	A	・後期の生徒アンケートにおいて、「学校が楽しい」に肯定的回答87%であった。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した生徒85%であった。 ・学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒83%であった。	・学校が楽しいと答える生徒が多いことは良いことである。ただ、少数の生徒は、楽しいとは思っていないので、今後さらにすべての生徒に目を向けて取り組んでいただきたい。
○SDGsの視点を意識した教育活動の展開	○SDGsの抱い手となる人を育てる「質の高い教育の提供」	○SDGsの視点を意識した教育の実践を行った教員80%以上。	・「SDGs～持続可能な開発目標～」の視点を意識した学習活動を通して、持続可能な社会を創るために学び続ける必要性を伝える。	B	・新たな取り組みというより、SDGsの視点を意識した教育の実践を行うことを教職員で共通理解し進めることができた。	B	・SDGsの視点を意識した教育の実践を行った教職員が76%であった。	・SDGsの視点を意識した教育の実践を行うことを教員で共通理解し進めていくことは良いと思う。 ・今後も「SDGs」の視点を意識して実践してもらいたい。	・各教科担当 ・学年主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・人権・同和教育を推進し、互いを思いやり尊重できる生徒の育成を図る ・「生徒指導の4機能」を生かした教育活動を推進し、生徒の自己指導力の育成を図る ・生徒が主体的に学ぶ魅力ある授業を展開できるように教職員が研鑽に励み、学力の向上を図る
--------------------	---